

半導体漫遊記

湯之上隆

⑬

4月末、母校である京大原子核工学科の修士課程にて、「LSI

によるパラダイムシフトとイノベーション

日本の未来と京大生への期待」という講義を行った。この講義は昨年末に依頼され、今年2月に題目を提出し

た。当初、講義内容としては、以下のようなことを考えていた。

まず、日本半導体産業の栄枯盛衰と最先端半導体技術を解説する。次に、21世紀に入りBRICsなど新興

諸国が急成長しエネルギー需要が急拡大して

事故収束の見通し見えず

原発再び冬の時代に

を浴びることになり、「チェルノブイリの原発事故から25年、やっ

と原子力の冬の時代は終わった。原子核工学科の学生諸君、とうとう、君たちの時代が来た」と結びつもりで

いること、一方で地球温暖化が深刻化して

り地球規模で省資源やCO2削減に取り組む必要があることを説明

する。そして、このように背景から、石炭・石油などの化石燃料に代わって原子力が脚光

見通しは全く立っておらず、現在も事故は進行中である。

その最中の講義である。この原発事故は筆者にとつて全くの「想定外」の出来事であり、一体、原子核工

あった。

ところが、福島第1原発で事故が起きてしまった。危険度は、

チェルノブイリの事故と並ぶ最悪のレベル7に引き上げられた。東

ツは早々と脱原発へ政策転換してしまった。

インドや台湾では反原発のデモが起きてい

科の学生にどう話をしたらよいただろうか？

筆者は頭を抱えてしまった。

日本各地で原発反対運動が起きている。その結果、震災前に定期

る。トルコは、日本とのようなパラダイムシフトが起きたか、また

期した。世界最大の原発国家アメリカでも、NRGエナジーが東芝

ら、1年後、日本の原発54基全てが停止して

いるかもしれない。もちろん、新設が計画さ

れていた14基の建設は絶望的である。

京大原子核工学科の看板

最後に、「電力会社に就職しようと思う人はいるか？」と聞いてみた。東電が袋たたきにあっている現在、一人もないだろうと思

出した。⑬・11以降、ど